

北樺太シユミッド半島探檢記（下）

檳 山 次 郎

シユミッド半島は荒涼たる北樺太中にて最荒涼として交通も大變不便であるから住民が非常に少い。半島の産業は唯漁業あるのみである。しかもそれは黒龍江河口附近に比すれば貧弱極まつた漁場しかない。讀者或ひはそんなに材木があり石炭があるのに何故採らないのかと思ふかもしれないが材木はもつと交通の便のよい南樺太から沿海州方面に無限に出るし石炭はまるで話にならないほど少量でしかも質が悪い。一時は砂金が出ると言はれたが試堀のロシア人は皆失敗した。此様な理由で半島には文明人が來り住まない。セーウツルヌイ灣の沿岸ムイスクといふのに漁場があつて毎年入札して官より借し下げられる。去年は函館の三浦氏が小規模に七八兩月鮭漁をしてゐた。日本人漁業家の他に永住者としてギリヤックが僅々數家族あるのである。ギリヤック人の部落はネワルツ入江の口にヌールがあり、西海岸にトゥミとビーリウオがある。ヌールは最大で約三十家族があつたが二三をのぞいて大部は昨年の不漁に越冬の食糧を得る事ができないので遂に南方タムレウオ地方に移住した。トゥミの二家族は雜魚以外何の漁もなくヌールのギリヤックやムイスクの日本人

より少しづつ食糧を分けてもらつてゐたが最先にタムレウオ方面に逃げて居たビィリウオも八月下



「家一のクッカリギミット」島半ドゥミュシ

旬此等の後を追ふて移住した。だから今では半島は殆んど無人の境と化したのである。ギリヤック人の生活は極簡單である。住家は丸太を組んだ堀立小屋で二坪三坪の小さなものである。其中に十人でも二十人でも棲んで居る。食物は主に鮭鱒で雜魚類は好まない。鮭は天日に干して固くしたのを冬期用に蓄へる。生のままで魚を喰ふ事を好む。水を加へたメリケン粉をそのまま火にくべた原始的のパンが唯一の澱粉質食品でアイヌブキといふ野草フリツブと總稱する小果實類の小量位しか植物性のものを食はない。魚の他にはアザラシの肉と油を好んで食べる位である。此様な生活であつたので近代まで石器を用ひて居たといふのも本當であらうと思はれる。

衣は支那服のやうな様で長く細い帯をする。ズボンをはき靴は海馬の皮で製する頭髮は長くのばし

て編んでゐるのは滿州人の如くである。腰にはアザラシの皮を廻してゐる者もある。ロシア人の用ふる古帽子をかぶつてゐる。衣服の切地は木綿で支那人から交換するらしい。特に赤色を好むのは野蠻人の常とする處である。此頃は日本人の勞働者から古衣をもらつて着てゐるものがあるがその有様は乞食である。彼等はまた酒はあまりやらないが煙草は大變に好物で人の顔を見るとロシア式にねだる。

貨幣は通用しない。彼等は冬の間熊・狐等を捕獲し毛皮を取つてをいて初夏日本人或ひは支那人の行商人の贅す雜貨と交換する。日本人と見れば種々結構な物貨を呉れる人種と思つてゐるか我等の天幕に盛んに汚き犬の皮海豹の皮を持つて來てメリケン粉煙草を要求した。一行は土人は酒を好むと誤りウオッカ酒を多量に用意したが實際は粗惡な酒精の毒を恐れて少しも欲せず皆人夫が呑んでしまつた。もし酒の代りに葉煙草を用意してをれば大いに徳になつた譯であつたが。土人を勞役に備ひ舟を借りた時は常に米を與へた。我等が食ひ残した飯は彼等の大いに喜ぶものであつた。そしてその代りに鮭を呉れた。

ギリヤック人はあまり勤勉ではない。魚が捕れなくて彼等の食糧問題の行きづまつた大事の際もなほ爲す事なくボカンとして居る。彼等は犬をよく使ふ。冬は橈をひかせ夏は舟をひかせる。航海法は海岸に沿ふて波打際を走る多數の犬が綱で帆柱を引張るといふ珍無類のものである。トゥミ川

地方のギリヤックは丸木船を用ひるそうだが北方のギリヤックは三枚の板で造つた簡単な舟を用ひてゐる。日本船やロシア船は重いとて好まない。彼等は音楽と舞踊とは不得手だ。ピーリウオで一月も彼等の側に天幕を置いて可なり親しんだが歌つたり踊つたりしたのを見なかつた。大變に靜かで沈んだ人種であると思ふ。死を忌む事は日本人と似て死人の出した家には棲む者がない。死人の殘した器物は如何に貴重なものでも手に觸れない。漁業者たる彼等は不潔だが不淨を嫌ふ事は日本人の習慣に似た處がある。犬の糞があつても人糞が散つてゐるのを見なかつた。

ギリヤック人は現在は對岸ニコライスクを中心として黒龍江地方と北樺太に住するツングース族の一種類であるといふ。其皮膚は黄色で稍淡黒いが日本人のやうに日にやけて黒くはならない。容貌はどこか蒙古人に似てゐるが日本人にも似てゐる。朝鮮人支那人と日本人とを區別する事は容易だがギリヤックと日本人とは判別し難い事がある。唯彼等には日本人特有の小賢し目がなくて溫和である點は優つてゐる。或人は彼等は數の觀念が小さくて十か二十しか知らないと言つたが此はロシア語或ひは日本語の數詞を知らないので實は億兆の單位を表す語がある。ギリヤック語にはドイツ語のツェーハーに似た發音がある。例へば胸をゴッホと言ふが *Gopp* の如く發音する。

調査中の一行の生活は面白かつた。一行の食糧は米味噌の他あまりもつて行かなかつたので天産品を採つて喰つた。鮭鱈は漁場やギリヤックより分けてもらつて飽く程食つたがその他海岸でイゴ

ヒやイシガレイを釣つて食つた岩に附着した北洋特有の *Mytilus edulis* といふ貝も食べた。ワカメの様な海藻からフキは勿論シロウマアサッキに似た。草も食つて見た。熊の好むコチャツク草は「おしたし」として極上であつた。御馳走は種々な鳥類で猛鷲の肉まで平げた。最興味あるのは岩魚である。小川にはイワナを始としヤマベやアメマスが澤山あるがよく釣れて一時間も居れば百尾も二百尾も捕れる。晝の辨當を使ふ際一寸十分位で菜が充分に出来る。

我等一行を苦しめたのは無數に棲んでゐる熊ではなくて蚊軍であつた蚊は半島到る所に多い特に沼澤地や川縁に群る蚊は眞に形容に苦しむ程澤山に居る夜も晝も蚊取線香を絶やす事は出来ず歩行には布で顔を包まねばならない。材木が豊富であるから燃料に差支へるやうな事はないがツンドラ及泥炭地の悪水には困つた。此は氷が解けて泥炭中の赤黒色物を流し出す爲でビーク川の水はビール状の色があつた。かくて我等は地質調査が一先區切りが着いた時は早や歸路に着かねばならぬ日がせまつた。迎への船三十二噸の石油發動船青鵬丸が來てくれた。八月二十六日いよいよビール川の根據地を去つた。其日夕刻ブロング灣口で強風に會し、舟底は屢淺瀬に突當つて膽を冷した。灣口に煩悶する事十五時間終に錨を失ひ辛じて翌日の夕刻にバイカル灣に避難するを得て一同無事を祝する事を得たのは幸運であつた。

一行はバイカル灣口ウイスクに上陸し海岸を西に進んでリュウギに滞在して附近の地質を調査し

た。其は石炭が出る金が出る石油が出るといふ風説があつたからであつたが亞炭をスラードコエ湖畔に發見した他大した事もなく私はタムレウオに出るといふ話の化石を探したが其も誤傳である事が分明した。

バイカル灣口から黒龍江水道タムレウオに至る海岸は鮭漁場の好適地である。従つて此間には永住民が少くなく相當の村落が發達してゐる。又漁業期間には多數の日本人も來り積取船も屢流れるのである。住民はロシア人を主としギリヤツク人朝鮮人及び少數の支那人も居る。主に漁業をなすがロシア人は牧畜をもする。極寒の地で耕作に適しないので馬鈴薯の他は畑はない。パンに用ふる麥粉はニコライスクより移入する。運搬は支那ジャンクがする。冬は黒龍水道の水が凍結するから自由に交通し得る。即ち此地方は北樺太のアレキサンドロスクよりもニコライスクに近き關係あり赤露の勢力が及び易い危險地帯である。

此邊一帶の地質は簡單で鮮新世の陸成層よりなり主に砂粘土の互層で少しく傾斜してゐる。丘陵は低く平である。海岸は洪積世以後に少しく沈降した。溺れ谷が出来てその口は砂丘で塞がれた故にスラードコエ湖その他の小湖水沼澤地が出来た。對岸黒龍江河口地方は主に玄武岩よりなり沈降海岸の地形を呈してゐる。

九月四日タムレウオのロシア人漁業家の所で手眞似で東京に大地震があり三越が焼けたといふ事

を聞いた。ロシア人は日本人の漁場から聞き漁場は沖の軍艦から聞き軍艦は無線電信で知つたのである。もし軍艦が沖を通過しなければ何時頃にやうやくこの大事件を知り得たらう。我等は急に心配になつた次第くくくに傳はる流言は益々災害を大きくして行く。八月やうやく先の青鵬丸が來た。不安に包まれた我等一行は一刻も早くアレキサンドロスクに歸り詳細が知りたいと思つた。此の日の夜船は流木でプロペラーを折り便所をとられた。何だかまだ難事に遭ひそうな氣がしてならない。九日の夕對岸の一孤島の陰に一泊し十日朝間宮海峽を通過した頃から風浪が次第にはげしくなる。しかし今度は追手で帆を捲いたので船は矢の様に進む。ブロング灣口の時化に際しては波が船室へ盛に浸入したが今日は其程の事も無い。船もあまり揺れないので此分なら夕方には亞港に歸れると思つてゐたが甲板に出ると驚いた。恐るべき大波が船を今にも呑まんばかりに追ひかけて來る。船はスピードのあるだけを出し強風に流されて行く。船長は今夜はデカストリーに逃げ込むかもしれない。しかしデカストリーは赤露が嚴重で入港を許すまいとて心配してゐた。三時頃デカストリー港口の燈臺を近くに見て一つ南の灣であるモンロワに入つて錨を下しやつと安心した所へ赤露の憲兵が來た。船長は談判の爲上陸した迎への船員も歸らない。明朝になつても歸らぬ。午すこし前に今度は赤露の兵隊が來た。船中の大検査が始つた。酒をしきりにねだる。毛布、麥粉、帆木綿を略奪する。私の唯一の帽子もとられた。船長と船員は陸に監禁されてゐる。船はデカストリーに廻はし乘員

は總てニコライスク刑務所に收容するといふ。大變な事になつた。兵隊と言つても彼等は乞食同様にギリヤック同様に汚い。軍服は憲兵と稱する男が一人着用してゐるばかり。鐵砲は日本の三八式歩兵銃なものには驚いた。到々一行金を出して彼等を買収した。共產主義者も金で買収されるんだから怪しい。彼等の共產主義は海賊式なのだから面白い。ソビエツト政府だのモンロワ灣自由團だのといふが名ばかりで矢張人間は汚い根性をもつてゐるんだとつくづく感じた。

アレキサンドロスクに歸つてから定期船のあるまで一週間附近に化石を採集した。三菱のドゥエ炭坑では加藤所長の御好意をムガツチ炭坑ではリンケウイツチ氏の御好意を得て充分採集をするを得た。

小樽に上陸した。災害後の氣分で人心が緊張してゐるのを感じた。(終り)